

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位 申 請 者	鄭 在喜【論文博士】 【比較社会文化学専攻 平成21年度生】 (平成27年3月31日単位修得退学)	要 旨
論 文 題 目	韓国語の事態把握と日本語学習に及ぼす影響-受動表現の産出を中心にー	<p>本論文の目的は、受動表現に現れる韓国語の事態把握の主観性について、受動表現を取り上げて明らかにし、それが日本語学習時にどのような影響を及ぼすのかを認知的観点から解明することにある。研究1では、文献を用い、日韓英の受動表現に現れた言語類型論的分析を行い、研究2では、産出データを用いた実験的分析として日韓英語母語話者の受動表現に現れる事態把握の異同を分析及び考察し、研究3では、韓国語の事態把握が、日本語を学習する際にどのような影響を及ぼすのかについて明らかにした。調査は、11コマ漫画を用い漫画のストーリーを記述してもらってデータとして用い各産出文の主観性を測定した。</p> <p>その結果、受動表現に現れた韓国語母語話者の事態把握は客観的把握をする傾向があることが確認された。なお、上級学習者である韓国語を母語とする日本語学習者は、受動表現の産出において日本語母語話者のように主観的把握をしていると思われる傾向が観察され、事態把握の異同が習得に及ぼす顕著な影響は現れないことを示した。</p>
審 査 委 員	(主査) 教授 森山 新	
	教授 佐々木 泰子	
	教授 加賀美常美代	
	准教授 西川 朋美	
	教授 荒川 洋平	